

Hiビニフレッシュセラ

汚染除去性内装用シリコンエマルジョン系塗料

☐ 規格表示

JIS K5663 合成樹脂エマルジョンペイント 1種 相当*

* 該当規格の性能を満たしています。(社内試験)

☐ 特長

- ・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
- ・環境配慮形塗料です。
- ・防火材料認定 (NM-8585・QM-9816・RM-9364)
- ・防藻・防かび機能があります。
- ・室内壁面の汚れ除去性に優れています。
- ・ヤニ止め性、付着性、耐水性などにすぐれています。
- ・オプションで抗菌機能を付与できます。すぐれた抗菌性を継続して発揮します。

☐ 塗料性状

色		淡彩～濃彩					
密度(g/cm ³)(23℃)		1.47					
光沢		つや消し					
引火点		－					
発火点		202℃（参考値）					
消防法表示	化学名	－					
	危険物区分	－					
	危険物等級	－（－）					
有機溶剤区分		なし					
毒劇物表示		－					
有害物表示		－					
ホルムアルデヒド放散等級	登録（認証）番号	N02322					
	区分表示	F☆☆☆☆					
	問合せ先	https://toryo.or.jp					
国連指針番号		－					
環境性能	クロルビリス キレン	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず	
	スチレン(モノマー)	配合せず	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず	
	フタル酸ジ-n-エチルヘキシル	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラデカン	配合せず	
	フェノールカルボン酸	配合せず	鉛	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず	
T V O C		0.2%					
防火材料等認定		NM-8585 塗料塗装/不燃材料,QM-9816 塗料塗装/準不燃材料,RM-9364 塗料塗装/難燃材料					

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

☐ 調色適応

つや有り			7分つや有り			5分つや有り			3分つや有り			つや消し		
淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○

・使用原色の種類、隠蔽性の関係上、目的の色相、つやに調整できない場合があります。

☐ 塗装基準荷 姿：
希 釈 剤：
塗 装 方 法：16kg、4kg
水道水

塗 装 方 法	はけ、ウールローラー、エアレススプレー、エアースプレー塗り
希 釈 率	0～10%
使 用 量	0.12～0.14kg/m ² /回

・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

・塗付け量は、0.10kg/m²/回です。

・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量

・塗付け量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

乾 燥 時 間：

	5～10℃	23℃	30℃
指 触 乾 燥	20分	10分	5分
塗 り 重 ね 乾 燥	5時間以上	2時間以上	1時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

☐ 特記事項

- ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。

□ 注 意 事 項

- ・防藻・防かび・抗菌効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ・色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- ・乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- ・スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ・反応硬化タイプの塗料のため、使用後はけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- ・動物はけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ・J I S K 5 6 6 3 1 種（主として屋外用）の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。
- ・塗膜に割れが生じるおそれがあるため、軟らかい塗膜の上への塗装は避けてください。
- ・本品は必ず2回塗りをしてください。1回塗りとして2回塗りでは仕上がり感が異なります。
- ・汚染除去性は、乾燥条件、使用量、塗り回数などにより若干差がでる場合があります。
- ・つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをしてから本施工してください。
- ・繊維壁、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロックウールなどの非常にぜい弱な素材には塗装できません。
- ・吸音板塗り替え用顔料分塗材（シールマットIIなど）の塗り替えには使用できません。
- ・氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- ・やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面は止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- ・下地にタバコのやに汚れが著しい場合は、下塗り材として水性シミ止めシーラーIIを塗装してください。
- ・塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスの接着力が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がってくることがありますので、クロスの合わせ部などはあらかじめ接着剤などで押さえておくことが安心です。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
- ・調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ・濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ・濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてから確認の上、ご使用ください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス（シリコン加工され水をかけると著しくはじくクロス）には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

●本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

●本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

●Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. ※この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。